

REFORPAC 25: 横田のイノベーションラボ 三沢のEOD訓練を支援 *REFORPAC 2025: Yokota Innovation Lab Supports Misawa EOD Training*

July 25, 2025

By Yasuo Osakabe
374th Airlift Wing Public Affairs

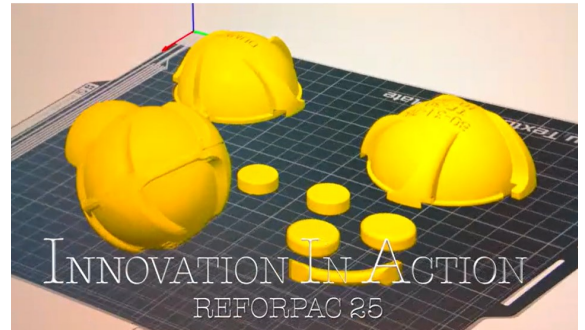
7月10日、演習「REFORPAC 25」において第374遠征航空団イノベーションラボは、三沢基地第35施設中隊の爆発物処理班(EOD)の訓練を支援するため、3Dプリントで50個以上もの模擬小型爆弾を製作した。

これは第35施設中隊のEODが、太平洋空軍管内のイノベーション・チームに対して要請したもので、横田基地のイノベーションラボが安全かつリアルに再現した訓練用模擬爆弾を製作した。これらの3Dプリント資材は、「REFORPAC 25」においてリアルな戦術的訓練環境を実現し、即応態勢を強化する。

「REFORPAC 25」は、太平洋空軍が実施する史上最大規模の有事対応演習で、軍人たちは複雑かつ広域に分散した環境の中で、緊迫した状況下でも即応体制を維持し、任務を遂行する能力を養うことを目的としている。

また「REFORPAC」は、過去数十年で初めて実施される空軍省レベルシリーズで、より強力かつ抑止力のある戦力としての態勢強化を進めるため、敵対的かつダイナミックな環境下での新たな作戦手法を実践するものである。

省レベル演習(DLE)は、米国防総省の全軍種が一体となり、同盟国およびパートナー諸国も参加して実施され、計350機以上の統合部隊の航空機、12,000名以上の隊員が、3,000マイル(約4,828キロ)以上にわたる範囲の50以上の拠点で展開される。



ビデオ

<https://www.dvidshub.net/video/970243/reforpac-2025-yokota-innovation-lab-supports-misawa-eod-training>